

【2026年後半の太占鑑定】

水谷哲朗さんへ。

2026年末までの半年間。それは、何かをさらに背負い、もっと大きな存在になるうとする時間というより、水谷さんの内側にある「中央の太陽」が、もう一度、身体と日常と仕事の中心へ深く戻ってくる時間なのかもしれません。

これまで積み重ねてきた祈り、言葉、身体の叡智、そして多くの人とのご縁。そのすべてが、一時的な勢いやお祭りで終わるのではなく、これからの活動の確かな土台として、静かに定着していく。そんな「中央回帰」と「新しい器づくり」の半年間に見えます。

太占に現れた三音は、ヲ・キ・ニ。

ヲは、深い内観と浄化の音。散らばった意識を、自分の中央へ戻す音。キは、胸の奥から生命の氣を起こし、言葉と身体に力を通す音。ニは、繰り返しながら、現実へ定着させていく音。

今の水谷さんに、「全部を背負わなくていい」「中央に戻っていい」「原点の呼吸へ帰っていい」「育ててきたものを、日常の器へ定着させていい」そう知らせているように見えます。

【それは、おかしくなかった】

もし今まで、「自分ももっと整えなきゃ」「みんなを導かなきゃ」「期待に応えなきゃ」「早く形にしなきゃ」そんな責任感や焦りが出ていたとしても、それはおかしくありません。

水谷さんが弱いからではなく、大切な人たちを守りたい、役に立ちたい、希望を渡したいという願いが強かったからこそその反応だったのかもしれない。

一人で抱えようとしてきた。期待に応えようとしてきた。相手の痛みを見過ごせなかった。自分の身体よりも、場の流れを優先してきた。

その優しさと責任感があったからこそ、多くの人が安心して集まってきたのだと思います。でも、その反応さえも、水谷さんをここまで連れてきた大切な知恵だったのだと思います。

【今、起きている現象】

今、水谷さんの中で起きていることは、仕事の拡大や講座の整理だけではないように見えます。もっと奥で、責任、境界線、発信、受け取り、身体の余白、そして「中央に立つ在り方」が整え直されようとしているのかもしれない。人が集まってくる。でも、その期待を全部背負うと苦しくなる。本当はもっとシンプルに伝えたい。でも、伝えたいことが多すぎて言葉が詰まる。導きたい気持ちはある。でも、相手の人生のハンドルまで握ろうとすると疲れてしまう。受け取りたい。でも、もっと働かなければ受け取れないような気がしてしまう。

そんなふうには、内側の太陽が、「もう、外側へ散らばった力を中央へ戻そう」と呼びかけているように感じます。

【太占ヲキニから届いたメッセージ】

ヲの音は、深層の内観と浄化の音です。海の深いところへ静かに潜るように、自分の奥にある本音、疲れ、嘆き、そしてまだ言葉になっていなかった願いを見つめ直す響きです。

フは、外側の期待やノイズに反応して散らばった意識を、自分の中央へ戻してくれます。「私は、どこに立つのか」「私は、何を本当に渡したいのか」。その原点へ戻るための音です。

キの音は、気が起こる音です。胸の奥から生命力が立ち上がり、喉と言葉に力が通り、身体の中にもう一度あたたかい流れが生まれていく響きです。無理に人を動かそうとしなくても、水谷さん自身が整うことで、場に必要な気が自然に巡り始めるように感じます。

ニの音は、定着の音です。一度の大きな突破ではなく、何度もあたたため、繰り返し、暮らしたり仕事の器へ根づかせていく音です。これまで積み重ねてきたものが、2026年末に向けて、新しい講座、セッション、コミュニティ、日々の習慣として、少しずつ形を持っていく流れです。

フで中央へ戻り、キで気を起こし、ニで現実へ定着させる。これが、水谷さんの半年間を支える太占の道すじのように見えます。

【陰と陽で見るヲキニ】

ヲキニの陰の側面は、過剰な期待の背負い込み、境界線の曖昧さ、そして「自分が何とかしなければ」という力みとして現れやすいかもしれません。

人々の希望が集まるほど、「自分が全部を受け止めなければ」「もっと早く答えを出さなければ」「みんなを引き上げなければ」という声が強くなることもあるかもしれませんが。すると、喉や胸がぎゅっと詰まり、呼吸が浅くなり、身体の余白が少なくなることもあるように感じます。

でも、それは欠点ではありません。水谷さんを守り、場を守り、人を大切にしてきた影の反応です。

そして、その影がやわらいだとき、陽のヲキニがひらきます。独立して立つ力。中央に戻る力。人々の希望が自然に集まり、それぞれの人生のハンドルを本人へ返していく、自立支援のリーダーシップです。

水谷さんの光は、誰かの人生を代わりに背負うためのものではありません。相手の中にも太陽があることを思い出させるための、中央の灯りなのだと思います。

【5つの惑星インセンスから届いたサポート】

今回、水谷さんの流れに寄り添うように現れたのが、火星、金星、天王星、ケ―トウ、ドゥルガー。この5つのインセンスでした。

これは、未来を決めつけるものではありません。でも、今の水谷さんの身体や心が、どんな整えを求めているのかを映す、やさしい象徴として見るることができます。

火星の香りは、丹田に力を戻す香り。境界線を立て直す香り。他人の期待をそのまま吸い込まず、「ここから先は相手の課題」「ここは私の中心」と、静かに線を引く勇気を思い出させてくれる香りです。

金星の香りは、愛と美と受け取りの香り。頑張っ取りに行くのではなく、これまで渡してきたものへの感謝や対価を、身体で安心して受け取るための香りです。「ただ在ることに価値がある」と、水谷さんの存在そのものへやさしく光を当ててくれます。

天王星の香りは、古い枠を超える香り。これまでのやり方、過去の実績、慣れ親しんだ活動の形を、一度広い視点から見直し、新しいOSへ更新していく香りです。急に壊すためではなく、次の器へ移行するための風のように感じます。

ケートウの香りは、手放しと静けさの香り。「自分の力で何とかしなければ」というコントロールをほどこき、流れに委ねる余白を思い出させてくれます。エゴを責めるのではなく、カんでいた手をそっと開くための香りです。

ドウルガーの香りは、守りと浄化の香り。場のノイズ、他人の重たい感情、過剰な期待を、水谷さんが一人で受け続けないための強い守りの象徴です。怖がらせる香りではなく、「私は私の場を清め、必要な境界を結んでいい」と思い出させてくれる香りです。

この5つを合わせて見ると、今の水谷さんのテーマは、境界線を整えること。受け取りを許すこと。古い活動の器を更新すること。力みを手放すこと。そして、中央に戻りながら、必要な人へ必要な光を届けていくこと。そんな流れに見えます。

火星が、水谷さんの丹田に力を戻します。金星が、受け取る器をやさしく開きます。天王星が、新しい活動の形へ風を通します。ケートウが、力みをほどこきます。ドウルガーが、水谷さんの場と身体を守ります。

この5つは、水谷さんを外側から変えるものではなく、水谷さんの中にすでにある中央の太陽を、思い出しやすくしてくれる味方なのだと思います。

【お名前の音から届いたメッセージ】

そしてもうひとつ。水谷哲朗さんのお名前にも、大切な響きが現れていました。

ミ・ズ・タ・ニ。ア・キ・オ。

ミは、身体や命の水を感じる音。水谷さんの中にある、目に見えない流れを受け取り、身体を通して整えていく響きです。

ズは、深いところに沈んでいたものを浮かび上がらせる音。言葉になる前の違和感や、場の奥にある揺れを感じ取り、静かに扱う響きです。

夕は、現実へ立ち上がる音。祈りや気づきを、行動や場づくりへ移していく力です。

二は、定着の音。繰り返し、あたたため、暮らしや仕事の中に根づかせていく響きです。

キは、氣を起こす音。身体の奥に眠っていた生命力が立ち上がり、言葉や手あてや場づくりの中へ、自然に力が通っていく響きです。

オは、身体、暮らし、信頼、定着の音。水谷さんの光を、ただ高い世界の言葉で終わらせず、日常、仕事、経済、コミュニティという現実の土台へ着地させていく音です。

そして今回、特に強く反応していたのが、アの音。

アは、中心へ戻る音。呼吸、原点、空、夢、志、自分軸を思い出す響きです。

アの音が一番強く反応したということは、「もう一度、原点の呼吸へ戻る」「外側へ散らばった意識を、自分の中心へ戻そう」そんな内なる太陽からの合図のように感じます。

水谷さんは、たくさんの人の希望や願いを受け取れる方です。だからこそ、気づかないうちに意識が外側へ広がりすぎて、身体の中心が少し後回しになることもあるのかもしれない。

アの音は、水谷さんに、「まず呼吸へ戻っていい」「まず自分の中心へ帰っていい」「あなたが空であることを思い出していい」と伝えているようです。

水谷さんの使命は、無理に誰かを背負うことではなく、アの中心に戻ることで、相手も自分の中心を思い出せる場をひらくことなのかもしれません。

ミで命の水を感じ、ズで深層を扱い、タで現実へ立ち上がり、ニで定着させる。そして、アで中心へ戻り、キで氣を起こし、オで地上へ着地させる。水谷哲朗さんというお名前は、祈りを現実へ降るすための道すじを持っているように感じます。

【昔の自分を守ってきた反応】

水谷さんの中にある背負い込みや責任感は、悪いものではありません。それはもしかすると、昔の自分を守るための避難場所だったのかもしれない。

先に全部を引き受ければ、場が乱れずに済んだ。自分が答えを出せば、相手を不安にさせずに済んだ。休まず動けば、期待に応えられた。自分の弱さを見せなければ、みんなの希望を守れると思った。外側に意識を向け続ければ、自分の疲れを見なくて済んだ。

だから、背負うことは、水谷さんにとって愛の形でもあり、生存戦略でもあったのかもしれない。

でも今は、その守り方を、少しずつ変えていける時期に来ているようです。

【本当は何を守りたかったのか】

本当は、みんなが自分の光を思い出す場を守りたかった。本当は、安心して祈りを手渡したかった。本当は、一人で背負うのではなく、仲間と分かち合いたかった。本当は、身体を犠牲にせず、長く続く器を育てたかった。本当は、言葉をもっとシンプルに、美しく届けたかった。本当は、受け取ることをもっと安心して許したかった。本当は、水谷さん自身も、中央で深くくつろぎたかった。本当は、アの呼吸へ戻り、空の中心から始めたかった。

【魂の願いⅡシロ】

本当は、水谷さんは、誰かを救うために自分を削るのではなく、自分が中央に戻ることで、相手も自分の中心を思い出す世界を体験したかったのかもしれない。

本当は、知識や技術を増やし続けるだけではなく、これまでの叡智を、必要ない人が受け取りやすい形へ美しく定着させたかったのかもしれない。

本当は、仕事も、人とのご縁も、お金の巡りも、「もっと頑張らないと得られないもの」ではなく、祈りと言葉と場づくりが誰かの安心になり、そのありがとうが自然に形になる流れとして受け取りたかったのかもしれない。

本当は、水谷さん自身が、アの中心で静かに呼吸しているだけで、必要な人が必要なタイミングで集まり、それぞれの人生の光へ戻っていく。そんな大調和の器を育てたかったのかもしれない。

【今回の現実クエスト名】

今回のクエスト名は、「背負い込みをほどこき、アの中心から中央の器を定着させるクエスト」かもしれません。

一人で全員分を抱え込むのではなく、ヲの響きで深く中央へ戻り、キの力で胸の奥から氣を起こし、ニの響きで日々の活動へ定着させていく。

そして、特に強く反応したアで原点の呼吸へ戻り、キで生命力を起こし、オで現実の器へ着地させていく。そんなクエストです。

【2026年末に向けた現実クエスト3ステップ】

第1ステップは、七月から八月。「背負い込みに気づき、アの呼吸へ戻る時期」です。

この時期は、受講生、クライアント、仲間、仕事の流れなど、外側から多くの期待や相談が集まりやすいかもしれません。その中で、「全部自分が何とかしなければ」と感じたら、それは責めるべき反応ではなく、中央へ戻るための合図です。

まず胸とお腹に手を置き、「これは私の課題、これは相手の課題」と、ひと呼吸してみてください。そして、特に強く反応したアの音を、吐く息に乗せて「アーアー」と一度だけ響かせてみてください。

出勤前やセッション前には、お尻を軽く締めて背骨を立てるミソフ呼吸を三回。自分の周りに静かな十角形の結界を結ぶような気持ちで、身体へ安心を戻してあげてください。

第2ステップは、九月から十月。「喉のパイプをひらき、本音の言霊を響かせる時期」です。

この時期は、頭でこねくり回した正解よりも、魂の奥から自然に出てくる言葉を大切にしたい流れです。新しい講座やメッセージ、歌、発声、動画、文章の中に、「今の自分が本当に伝えたいこと」を少しずつ通していく時期です。

言葉が詰まったときは、喉に手を置くよりも、まず胸とお腹に手を置いてください。そして「私は、アの中心からやさしく響かせます」とひと呼吸してか

ら、「ヲキニ、ヲキニ、ヲキニ」と小さく唱えてみてください。喉だけでなく、身体全体が言葉の器であることを思い出していく時期です。

第3ステップは、十一月から十二月。「中央へ希望が集まり、新しい器が定着する時期」です。

年末にかけて、これまで温めてきた叡智や講座、セッション、物販やコミュニティの流れが、新しい器として整っていくように見えます。大切なのは、すべてを増やすのではなく、中央に戻ること。増やすより、束ねる。急ぐより、定着させる。背負うより、場を整える。

金星のサポートを借りて、喜びの対価を受け取ることも大切な実践になります。ありがとを受け取る。仲間の力を受け取る。申し込みやご縁を、遠慮なく受け取る。そうした一つひとつが、二の力で、水谷さんの新しい土台を静かに強くしていきます。

この三つのステップを通して、背負い込みに使っていた力が、アの中心に戻り、場を整え、必要な人の自立を支える力へ少しずつ戻っていきます。

【もう選ばなくていい古い物語】

もう、全部を一人で背負わなくていい。もう、相手の人生のハンドルまで握らなくていい。もう、期待に応えるために、自分の身体の声を後回しにしなくていい。もう、忙しさを価値の証明にしなくていい。もう、完璧にまとめてからでないと出せないと思わなくていい。もう、受け取ることと遠慮しすぎなくていい。もう、外側の希望の重さを、自分の中心に置かなくていい。もう、原点の呼吸を後回しにしなくていい。

【これから選んでいい新しい物語】

私は、アの呼吸へ戻っていい。私は、私の中央に戻っていい。私は、すべてを背負わなくても、人を照らしていい。私は、境界線を結びながら、愛を手渡していい。私は、私の身体を大切にしながら、長く続く器を育てていい。私は、喜びの対価を、安心して受け取っていい。私は、祈りと言霊を、現実の仕事へ美しく定着させていい。私は、中央の太陽として、必要な人の中にある光を思ひ出させていく。

【相手や外側の声との距離】

今回の流れには、受講生、クライアント、仲間、仕事のご縁、SNSや情報、期待や評価。そうした外側の声も大きく関わっているように見えます。

でも、その全部を水谷さんが背負わなくて大丈夫です。相手の不安を、水谷さんの責任にしなくていい。相手の依存を、愛の証明にしなくていい。相手のスピッドに、水谷さんの呼吸を合わせすぎなくていい。

水谷さんのクエストは、誰かを無理に変えることではなく、自分の中央に戻り、言葉と場と身体を整えること。そこから、必要な人がそれぞれの中心へ戻る流れが、少しずつ結び直されていくのだと思います。

【ヲキニの音の使い方】

この半年間、太占に現れた三音「ヲ・キ・ニ」を、日々の小さな祈りとして唱えてみてください。フトマニでは、三六〇回唱えることが、願いを整え、祈りを深く身体へ通す数として大切にされていると言われています。

もちろん、無理にたくさん唱えなくても大丈夫です。朝起きたときに一回。セッションや発信の前に一回。背負い込みが出たときに一回。声に出せる日は「ヲキニ、ヲキニ、ヲキニ」と、やさしく三回ほど唱えてみてください。

胸やお腹に手を置いて、ふっと息を吐きながら響かせるのもおすすめです。声に出せないときは、心の中で響かせるだけでも大丈夫です。大切なのは、回数をこなすことよりも、水谷さんの身体が「私は私の中央へ戻っていい」と思い出すことです。

そして、外側へ意識が散らばったときは、アの音を一度だけ、身体の真ん中で響かせてみてください。「アー」と無理なく吐く息に乗せるだけで大丈夫です。アの音は、水谷さんを原点の呼吸へ戻してくれる小さな合図になるかもしれない。

【使命和歌】

あまのきの きをふきおこし おちついて
いびをきたのせ くうのひかりへ

この使命和歌は、水谷哲朗さんの名前に宿る音と、太占ヲキニの流れを結んだお守りの言霊です。

特に強く反応したアの音が、この和歌のはじまりにある「あま」の響きを照らしています。

アは、呼吸と原点へ戻る力。キは、胸の奥から氣を起こす力。オは、身体と暮らして仕事へ定着させる力。

フキニの音が響くとき、水谷さんの身体は、外側の期待を背負う器ではなく、祈りと言霊を地上へ通す空のパイプへ戻っていくように感じます。

声に出すときは、上手に読む必要はありません。胸やお腹に手を置いて、ゆっくり息を吐きながら、身体に聴かせるように唱えてみてください。

【今日できる小さな一歩】

今日の一歩は、とても小さくて大丈夫です。

胸とお腹にそっと手を置きます。お尻を軽くキュツと締めて、頭のとっぺんから背骨を通して、お腹へ息が降りてくるように三呼吸します。

そして、ひと呼吸だけ、自分にこう言ってください。

「私は、アの中心へ戻っていい」

そのあと、お水をひと口だけ、ゆっくり味わって飲んでください。

最後に、「アー」と一度だけ、吐く息に乗せて響かせてみてください。声が出せないときは、心の中で響かせるだけでも大丈夫です。

それだけで今日は十分です。大きく変えようとしなくていい。まずは、水谷さんの身体が安心する一歩から大丈夫です。

【伝えるならこの一文】

自分に伝えるなら、「私は、背負い込みではなく、アの中心から選びます」

誰かに伝えるなら、「あなたの中にも光があります。私は、その光を思い出す場を整えます」

仕事やご縁に向けて伝えるなら、「私にできる形で、祈りと言霊を現実の器へ定着させていきます」

【最後の言霊】

フキニの音とともに、私は、私の中央へ戻ります。

アの音とともに、原点の呼吸を思い出します。

背負い込みをほどこぎ、生命の氣を思い出します。

祈りと言霊を、日常と仕事の器へやさしく定着させます。

今日の一步を、静かに育てます。

心配を神拝へ。

水谷さんの人生に大きな幸あれ。

よ〜っ、あなあっばれ！

鑑定 2026年7月4日 水谷哲朗